



学校教育OK

志方東小学校 第6学年 体育（保健）科学習指導案

利用の際は必ず下記サイトを確認下さい。

www.bunka.go.jp/jiyuriyo

日時 平成18年11月30日（木） 第5校時

学校名 加古川市立志方東小学校

学級 6年1組（男子21名 女子12名）

指導者 大住 力也

1 単元名

- ・ 病気の予防

2 単元設定の理由

- ・ **単元観**：本単元は、身のまわりで今後起こりうる様々な病気に対し、その原因と予防の方法を科学的な知識として学ぶものである。また、近年小学校教育課程の中に取り入れられた薬物乱用防止教育に関する内容については、今現在の児童にとっては身近なものではないかもしれないが、薬物に関する正しい知識やその恐ろしさを学ぶことが今後中学校や高等学校等で学ぶ際の基となり、重要な体験になると考えられる。
- ・ **児童の実態**：本学級の児童は、学校の保健指導や家庭での会話の中、テレビなどから病気に対してある程度の情報を持っている。ただ、まわりの大人から指導をうけて病気につながる行動をとらずにすんでいる感も否めず、日常生活において主体的に自らの生活習慣等に気を配り、病気の予防に努めるレベルまで高まっている児童はまだそう多くはないと考えられる。また、薬物に関しては、アンケートの結果「薬物乱用」という言葉を約30%の児童が「知っている」と答えたが、具体的にその内容を答えられたのは約1.5%にすぎず、薬物乱用の結果どうなるのかという問いに答えられなかった児童も約30%いた。
- ・ **指導観**：病気の予防については児童の今までの疾病体験など身近な事例をもとに、その原因を考えさせ、病原体だけでなく環境や生活のしかた、体の抵抗力などが関わり合っていることに目を向けさせる。そして、衛生に気をつけたり、規則正しく生活したりする事の重要性を改めて認識させ、生活習慣等に気をつけていくなど、より主体的に自らの健康について考えていく態度を培いたい。また、薬物乱用防止教育に関する内容においては、映像等の視聴も交え、薬物が心身に及ぼす害や社会に与える悪影響についての理解を深めさせていく。そして、薬物の乱用は個人的な問題ではなく家族や社会全体を不幸にする恐ろしい行為であるという意識を持たせ、薬物を乱用してはいけないということが「自分を大事にする気持ちや行動の結果」として結びついていることを児童が自ら考え、気づいていくように指導していきたい。

3 単元の目標

- ・ 関 心 ・ 意 欲 ・ 態 度 : 病 気 の 原 因 や そ の 予 防 法 に 関 心 を 持 ち 、 主 体 的 に 自 分 の 生 活 を 改 善 し よ う と す る 。
薬物に頼ることのない健全な生活をしていこうとする意欲を持つ。
- ・ 思 考 ・ 判 断 : 病 気 を 予 防 す る た め に は ど う す れ ば い い か を 考 え る 。
薬物乱用のきっかけについて知り、それらへの対処法を考える。
- ・ 知 識 ・ 理 解 : 病 気 の 原 因 が わ か り 、 予 防 の し か た が わ か る 。
薬物が心身に及ぼす害と社会に与える悪影響がわかる。
薬物には依存性があることや薬物の乱用は法律で厳しく禁止されていることがわかる。

4 指導計画（9時間扱い）

- (1) 病気の起こりかた----- 1
- (2) 病原体と病気----- 2
- (3) 生活のしかたと病気----- 2
- (4) 飲酒の害----- 1
- (5) 喫煙の害----- 1
- (6) 薬物乱用の害----- 1 (本時)
- (7) まとめ----- 1

5 本時の指導

(1) 本時の目標

- 到達目標** : 薬物が心身に及ぼす害と社会に与える悪影響がわかる。
薬物には依存性があること、薬物の乱用は法律で厳しく禁止されていることがわかる。
薬物乱用のきっかけについて知り、それらへの対処法を考える。

(2) 利用するメディア

- (A) 利用するメディア** : 「ストップ・ザ・薬物」薬物乱用防止教育ビデオ (財団法人 日本学校保健会)
PC自作画像 (スタディノート)
薬物乱用防止「ダメ。ゼッタイ。」ホームページ (財団法人 麻薬・覚せい剤乱用防止センター)
教科書の挿絵を拡大したもの
- (B) 利用方法** : 授業内容に対する興味・関心を高め、薬物の害についての理解を深めるために使用する。

(3) 展開

時配	学 習 活 動	指導上の留意点及び評価	使用メディア・メディア活用上の工夫	メディア選択の理由
分単位 (5) (15)	<p>1. 薬物乱用という言葉の意味を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医薬品を医療以外の目的で使うこと ・医薬品以外の化学物質を不適切に使うこと ・1回使うだけでも乱用という <p>2. 薬物乱用の害について考える</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 薬物を乱用するとどんな害があるのでしょうか </div> <ul style="list-style-type: none"> ・脳などがやられる ・他人に対するいたわり、思いやり、ルールを守る等人間らしい心が奪われる ・犯罪や事故にもつながり、国を滅ぼすもとになる ・依存性があり自分の力ではやめられなくなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・持っているだけでも罪になるなど法律で厳しく禁止されていることを伝える（死刑になる国もある） ・少年が一番乱用しやすいシンナーをまず取り上げその害について考えさせる ・1回の乱用で死ぬこともあるということをおさえる ・薬物乱用がもたらす影響は個人にとどまらず、周囲の人や社会にも害をもたらすことに目を向けさせる ・シンナーなどの薬物乱用、薬物依存の関係図を利用し最初に手を出さないことの大切さを理解させる ・大人に相談することや、早ければ早いほど救われることをおさえる 	<ul style="list-style-type: none"> ・シンナー、麻薬、覚せい剤などの画像 ・「刑罰」 <p>PCスタディノート（以下SN）画像</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「シンナーの害」（SN画像） ・「ストップ・ザ・薬物」（財団法人 日本学校保健会）を視聴 シンナーの害を4分視聴させた後1度止めて、内容の確認をする。その後、続けて覚せい剤などの薬物の害について4分視聴させる ・シンナー乱用者の描いた渦巻きの絵や縮んだ脳の画像（SN画像） ・薬物の影響をまとめた挿絵を掲示 ・シンナーなどの薬物乱用、薬物依存の関係図を掲示 ・「ダメ。ゼッタイ。」ホームページの薬物乱用がもたらす社会的影響のページを見せる 	<ul style="list-style-type: none"> ・画像を用いることで児童の注意を喚起する ・画像を用いることで児童の注意を喚起する ・薬物の害をストーリーのある展開で分かりやすく訴えてある映像なので、児童の関心を高め、理解を深めることに効果が期待できる ・害の一つとして掲示する。 ・まとめとして使用 ・薬物依存の関係がわかりやすくまとめてあり、最初に手を出さないことの重要性を示している ・薬物乱用が凶悪な事件にも結びつくなど深刻な社会的影響を与えていることに気づかせるのに有効である

分 単 位	3. 薬物に手を出すきっかけについて考える			
(10)	<div data-bbox="241 183 678 311" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>どうして薬物に手を出してしまう人がいるのでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仲のいい友だちや先輩からの誘いから ・ 自分の好奇心から ・ 不法な薬物だと思わなかったから 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正しい知識がないことも原因の一つであることをおさえる ・ 薬物の呼ばれ方は色々あるが、薬局で売っているものでもなく医師の指示のもと処方された薬でもないものは全て不法な薬物であることもおさえる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書の挿絵を拡大したものを掲示 ・ 様々な呼び方を書いたカード 	<ul style="list-style-type: none"> ・ まとめとして使用 ・ カードを用いることで、児童の注意を喚起する
(10)	<p>4. 薬物乱用の害についての知識を確認し、すすめられたときの断り方を考える</p> <div data-bbox="241 734 656 861" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>薬物乱用の害についての知識を確認しよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートに記入 <div data-bbox="241 901 633 1029" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>薬物をすすめられたときの断り方を考えよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートに記入 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートで知識の確認をしその後、誘い言葉に対する反論を書かせる ・ 薬物の害の恐ろしさを理解できたか（知・理） <ul style="list-style-type: none"> ○ 心身への害 ○ 社会への害 ○ 依存性など ・ 断る方法を考えられたか（思・判） ・ 薬物に頼らない生き方をしたいこうとする意欲が持てたか（関・意・態） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシート 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一人一人じっくり考えるのに効果的であると考えられる ・ 後日評価する上で参考となり、次時の活動の資料にもなる
(5)	<p>5. 薬物から身を守るための自己診断チェックをする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートに記入 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 知識、意思、まわりの助け、自分を大切に思う気持ちの全てが大切であることをおさえる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間があれば「ストップ・ザ・薬物」（財団法人 日本学校保健会）のエンディングを6分視聴 	
計 (45)				